

認知症の人や家族にやさしいまちづくり

小さな本棚

～こどもたちへのメッセージ編～



私たち福岡県作業療法協会は、小さな本棚の活動を通して認知症を抱えた方の理解が少しでも深まるようまた、そのご家族にとって共に暮らす毎日がより良い経験になるようこの企画を継続してきました。

最初は本人からのメッセージ、次に家族からのメッセージをテーマに推薦図書を紹介させていただきました。第3弾である今回は、「子どもたちへのメッセージ」をテーマに推薦させていただきます。子どもって純粋な一面を持っています。

認知症を抱えた人への対応としてではなく、「おじいちゃん、おばあちゃん」として話しかけたり、疑問に思ったりそれをストレートに表現します。認知症の人と共に暮らすご家族にとっても私たち専門家にとっても、学ぶことが多い感覚なのではないでしょうか？今回は、認知症の人に携わるすべての方に読んでいただきたい本となっています。この本を手にとった皆様の心にあたたかい風が流れれば幸いに思います。

どうぞご活用ください。

公益社団法人 福岡県作業療法協会
会長 濱本孝弘



福岡県作業療法協会では、令和5年度から認知症の人や家族にやさしいまちづくりを目指して作成している「小さな本棚」シリーズも三作目となりました。

一作目は「本人からのメッセージ編」、二作目は「家族へのメッセージ編」。三作目のテーマを決めかねていたところ、ある小学生の母親の方から「おじいちゃん、おばあちゃんが認知症になったときに、孫である子どもたちに何をどう伝えたらいいのでしょうか」という声を伺い、「子どもたちへのメッセージ編」を制作することにしました。

共生社会を築くには、子どもたちの理解が欠かせません。子どもたちへのメッセージは、全世代へのメッセージでもあります。それぞれの世代や立場、タイミングで、同じ絵本でも感じることや考えることは異なるかもしれません。ただ、共通しているのは、認知症の方とみんなとともに暮らす方法を一緒に考えるきっかけになるのではないのでしょうか。

この「小さな本棚」が、子どもたちも大人たちも一緒に、繰り返し読みたくなる本との出会いにつながることを願っています。

公益社団法人 福岡県作業療法協会
保健福祉部 担当理事 都甲幹太



わすれないでね　ずっと　だいすき

ジーン・ウィリス 作　ラケル・カタリナ 絵

前田まゆみ 訳　笈祐介 監修

出版社：小学館

出版年：2022年



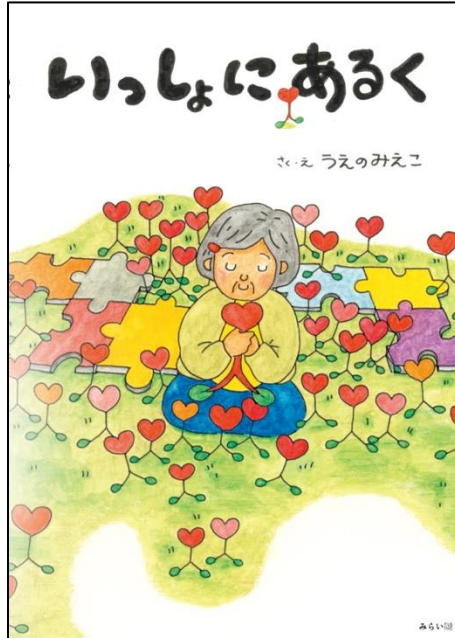
おばあちゃんは頭の病気でジョージのことを誰か忘れてしまう。だけど、愛してくれていることは昔もこれからも変わらない。ずっとそばにいるジョージの愛とおばあちゃんの愛。

いっしょにあるく

うえのみえこ 作・絵

出版社：みらいパブリッシング

出版年：2022年



いつもいっしょにいたおばあちゃんが何かおかしい。おばあちゃんにいったい何があったのか…？

おばあちゃんに起こったできごとをみんなで知って、助け合っていくお話。

ゆきちゃんは、ぼくのともだち！

武田美穂 作・絵

出版社：童心社

出版年：2022年



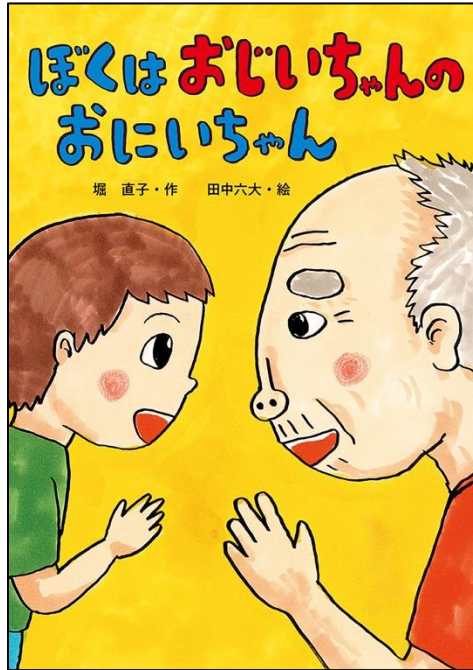
子どものころにもどってしまうおばあちゃん。
孫のけんたはこまってしまう。でも、ある方
ほうでおばあちゃんとともだちになった。
どんな方ほうかよんでみつけてみよう。

ぼくは おじいちゃんのおにいちゃん

堀直子 作 田中六大 絵

出版社：ポプラ社

出版年：2020年



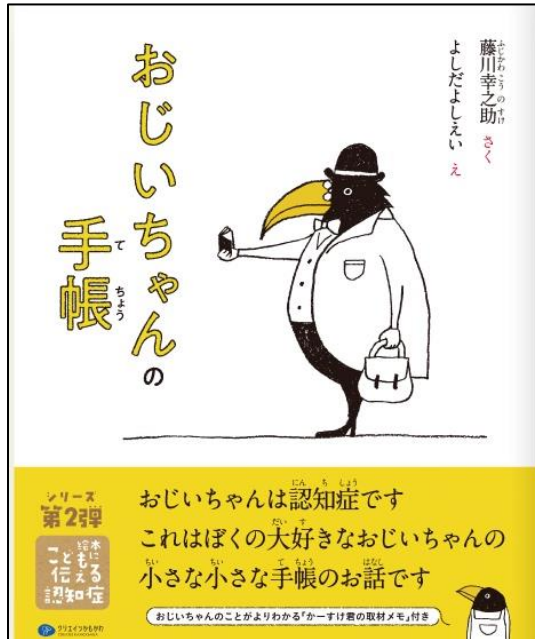
小学3年生のむすめとよんだ。こんなふう
に言ったらつたわるね、みんな分かるね、
と話しながら。
心が少しずつ近づいていくような、
いっしょにすごす時のヒントをみつけよう。

おじいちゃんの手帳

藤川幸之助 作 よしだよしえい 絵

出版社：クリエイツかもがわ

出版年：2020年



「変わっていくおじいちゃん」、
「変わらないおじいちゃん」
両方を大切にするかーすけ君。
かーすけ君のやさしさにふれて自信を取り
もどしていくおじいちゃんのがたり

おばあちゃん、ぼくにできることある？

ジェシカ・シェパード 作 おびかゆうこ 訳

出版社：偕成社

出版年：2019年



せかいでいちばん大すきなおばあちゃん
わすれたり、同じことをいったりするけど、
大すきなきもちはかわらない
おばあちゃんのためにできることのヒント
がつまっている

わたしをわすれないで

ナンシー・ヴァン・ラーン 作

ステファニー・グラエギン 絵 角野栄子 訳

出版社：マイクロマガジン社

出版年：2018年



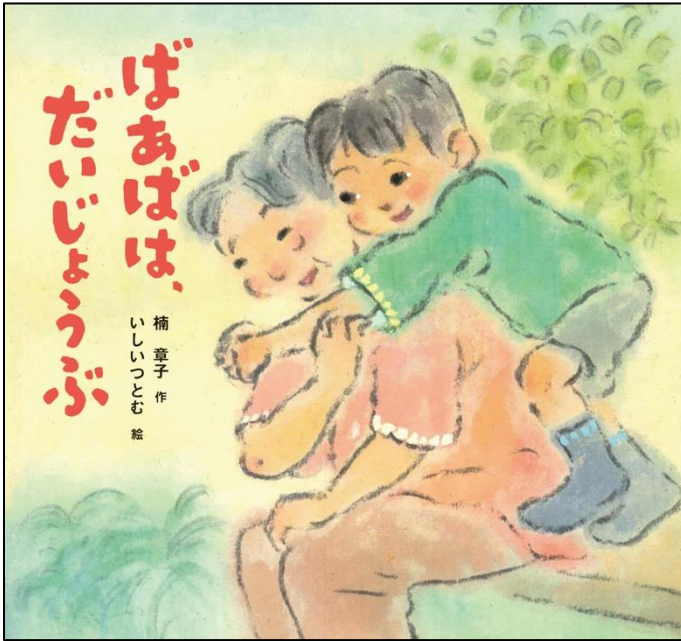
なんでもできるすてきなおばあちゃんが
いろんなことをわすれてしまった
変わっていくおばあちゃんにとまどいなが
らもやさしくよりそう、まごのジュリア
あたたかく語りかける本

ばあばは、だいじょうぶ

楠章子 作 いしいつとむ 絵

出版社：童心社

出版年：2016年



だんだんとわすれていく病気になった、ばあば。
だけど、ぼくへのあいじょうは変わらない。
いつも守ってくれたばあばを、これからは
かぞくで守る。
ぼくにもできることがきっとある。

おばあちゃん、おじいちゃんを知る本② どうしてすぐに忘れちゃうの？

認知症と病気

井藤英喜 監修 小島喜孝 編 矢部広明 編

江頭恵子 作 水野あきら 絵

出版社：大月書店

出版年：2015年



人が変わってしまうようでこわい。いつか自分やまわりの人になるかもしれない「にん知しょう」。病気がそうさせていて、まわりが理かいることが大切だとわかる一さつ

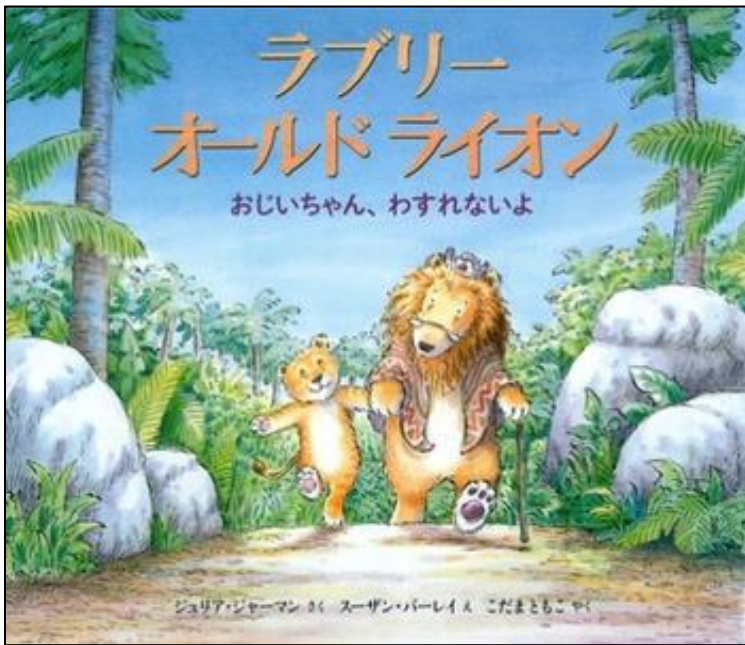
ラブリーオールドライオン おじいちゃん、わすれないよ

ジュリア・ジャーマン 作 スーザン・バーレイ 絵

こだまともこ 訳

出版社：フレーベル館

出版年：2015年



王さまライオンのおじいちゃんがとしをとって、わすれんぼうになって、くたびれていく。まごのレニーがおじいちゃんによりそいながら、老いを見つめるあたたかいお話

編集後記

「認知症について、次世代にどのように伝えるの?」、そんな気持ちが動機でした。認知症に関する本は、多く出版されています。テレビ番組で特集が組まれる頻度が多くなっています。しかし、小学生低学年の子どもたちに、この病が正しく伝わっているだろうか。親御さんが正しく伝えようと思ったら、どんな本があるだろうか。

10名の紹介者には、中学生、子育て真っ只中のお母さん、お父さんが含まれています。みなさんも子どもさんと一緒に、紹介本を手にとってみてください。

小さな本棚
子どもたちへのメッセージ編

作成委員

重野彩香（あやめ訪問看護ステーション）

須崎優介（東筑病院）

高木邦男（北九州市立八幡病院）

谷川良博（令和健康科学大学）

都甲幹太（介護老人保健施設 あやめの里）

福満裕（日明病院）

協力者

岡部友梨佳（中学生）

古賀綾香（柳川やすらぎの里）

坂口葉紡（中学生）

津島瑞稀（戸畑リハビリテーション病院）

坪井千明（日明病院）

福満まり子（デイサービス じりつ）

村上陽子（行橋市）

夜久加代子（在宅看護センター北九州）

吉田裕美（福岡新水巻病院）

公益社団法人 福岡県作業療法協会

〒802-0044

福岡県北九州市小倉北区熊本1丁目9-1

ONE OFF第2ビル101号

電話：093-952-7587



福岡県作業療法協会HP

